

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
（総括・分担）研究報告書

聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育手法の開発等に資する研究

研究分担者 吉田 晴郎 長崎大学 医歯薬学総合研究科 准教授

研究要旨

難聴児に対するガイドラインの内容および対処について、家族が理解しやすい内容で冊子を作成し配布した。療育に対する保護者の理解度が高まり、より積極的な療育につながる可能性がある。

A. 研究目的

完成した難聴児の療育に関するガイドラインの内容、難聴と診断された後に、どのような順序で対処を行うべきかについて、分かりやすい内容で説明した冊子を作成し、難聴児の保護者に理解してもらおう。

B. 研究方法

上記に関する対処を集約したガイドライン本文から、重要と考えられる箇所を抽出し、その内容について難聴児をもつ保護者に分かりやすい表現、描写でまとめる。さらに、完成した冊子を実際に保護者に手渡し、内容の理解度を調べる。

（倫理面への配慮）

ガイドライン本文からの要約が主で倫理的問題は発生し難い

C. 研究結果

難聴児をもつ保護者にとって、ガイドライン本体を購入することはほぼみられなかったが、リーフレットの内容は非常に興味深いという意見が多くみられた。今までは、病院やろう学校からの指示のままに対処してきたが、リーフレットを参考に、今後は自分でも内容を学習して判断して行きたいという意見もみられた。

D. 考察

ガイドライン本体は、主に医療従事者を対象としているため、その内容を保護者の家族が理解することは容易ではない。

しかし、その内容を分かりやすくしたリーフレットであれば、保護者にとっても難聴児に対する療育にとって重要なポイントを理解することが可能であった。また、保護者が今までの病院や教育機関から指示された通りに受動的な療育を行うのではなく、自ら理解して判断していきける礎となり得る可能性もあると考えられた。

E. 結論

難聴児の療育にとって、保護者の協力は必須かつ非常に重要なものである。ガイドライン本体の内容を平易に説明した小冊子により、保護者が内容を理解することができ、療育に対する判断の一助になり得る。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

吉田 晴郎. 小児の人工内耳手術.耳鼻咽喉科臨床 114(10) 806-807, 2021.

神田 幸、吉田 晴郎、佐藤 智生、小路 永聡美、木原 千春、北岡 杏子、熊井 良彦、高橋 晴雄. 難聴児療育システムの構築 新生児期(新生児聴覚スクリーニング、先天性サイトメガロウイルス感染症含む). 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 124(9) 1262-1269, 2021.

北岡 杏子、吉田 晴郎. 【チャートでみる耳鼻咽喉科診療】診断から治療へ 耳科領域 耳硬化症.JOHNS 37(9) 1050-1052, 2021.

吉田晴郎、熊井良彦. 【聴覚検査のポイント-早期発見と適切な指導-】鼓膜正常で気骨導差のある聴力図の見方(解説/特集)ENTONI 253(253) 11-15, 2021.

Ikeda R, Hidaka H, Ito M, Kamide Y, Kuroki H, Nakano A, Yoshida H, Takahashi H, Iino Y, Harabuchi Y, Kobayashi H.

Pharmacotherapy focusing on for the management of otitis media with effusion in children: Systematic review and meta-analysis. Auris Nasus Larynx. 2022 Mar 24:S0385-8146(22)00072-4.

2. 学会発表

吉田晴郎、他. 18才以上で人工内耳を受けた先天性難聴29例. 第122回日本耳鼻咽喉科学会. (2021. 5) .

吉田晴郎、他. 新生児聴覚スクリーニング要精査児に対する支援の問題点. 第31回日本耳科学会. (2021. 10) .

吉田晴郎. きこえの公開講座.高齢者の人工内耳. (2021. 11) .